

青少年の自立を 支える会 通信

第13号 平成12年4月28日

発行/青少年の自立を支える会
所在地/宇都宮市南大通り4-2-18
☎・FAX 028(651)0161
発行責任者/伊達悦子
編集責任者/福田雅章

子どもたちの代弁者として

～自立援助ホームの発展を思う～

青少年の自立を支える会副理事長 野中ハツエ

去る3月11日、宇都宮市で開催された第4回全国自立援助ホームセミナー栃木大会は多くの皆様のご参加とご協力を頂きまして、予想以上の成功を収めることができました。

基調講演をされた鳥取こども学園園長の藤野先生をはじめ、シンポジストの、横浜市自立援助ホームえんどうホームの遠藤さん、中央児童相談所所長補佐の秋場さん、星が丘中学校校長の須藤さんが、それぞれの立場から青少年の自立のために懸命に取り組んでいらっしゃる熱い思いに、参加者は胸を打たれ、活発な討論・質疑に発展し、時間が足りないほどの盛況ぶりでした。後日、全国自立援助ホーム連絡協議会から、栃木大会の素晴らしかったことについて感謝の言葉があったほどです。

このセミナーの企画運営に当られました実行委員、ボランティアの皆様ほんとうにありがとうございます。セミナーの詳細につきましては本文に掲載されておりますのでご覧いただきたいと思います。

セミナー終了後、他県の自立援助ホームの方々から、行政の援助を取りつけることの必要性についてアドバイスがありました。

幼ないうちから心に傷を負って成長した青少年たちが、「大人を信頼できる、自分を認めることができるetc」ようになるまでには、長い時間が必要なことは言うまでもありません。

そのためにも、星夫妻が後顧の憂いなく子どもたちの処遇に、またアフターケアに専心できるような条件整備をしていかなければならないと思っています。

当面の重要課題の一つは、財政的基盤を強固なものにすることです。一人でも多くの賛同者を得る努力は勿論ですが、諸団体からの寄付金、公的資金の導入を図っていくための方策を早急に打ち出していく必要があります。その他どんな方法があるか、皆様方の知恵をお借りしたいと思っています。

自立援助ホームは比較的歴史が浅く、社会一般への周知度は今いちです。私達は“社会の歪みをうけやすい弱い立場である子どもたち”の代弁者として、人として正当に処遇される権利を有するものであることを、粘り強く社会に訴えて行かなければと思っています。



全国自立援助ホームセミナー栃木大会を ふり返って

ここではセミナーの内容について報告いたします。

まず、藤野興一さんによる基調講演「自立援助ホームを全国に」では、試行錯誤をしながら歩んできた自らの園の実践をふり返り、自立援助ホームの現在の意義について、法制度的な問題点をも明らかにしながら語られました(児童養護施設鳥取こども学園の実践をめぐって)。

今から溯ること25年、高校進学率が95%前後に達していた頃、養護施設で暮らす子どもの高校進学率は20%代に過ぎませんでした。昭和49年に「特別育成費」という形で高校の費用が施設に出始めたということです。「この子達にこそ、高校に進む道を開くべきだ」という思いから、高校全入運動を展開されたこと。

施設という集団生活の中では、とすると職員による管理や強制が強まったり、子ども同士のタテの支配・服従関係が現れたりします。藤野さんは「自分を大事にしよう、人も大事にしよう、そして何でも話し合いで解決しよう」という唯一の学園の決まりを作り、ささいな事件でも見逃さず、大騒ぎをすること。さらには高校生交流会を企画し、子ども達の生の声をくみ取る実践へと発展させていく。

子ども達の方に対等に、そして一直線に向けられる眼差しを感じることができるのです。

「不登校の数だとか、虐待の数だとかの増加、それから高校中退・中卒児童、いわゆる思春期危機の真ただ中にいる子ども達に対するケアが最も立ち遅れていると思います。・・・ほんとに抜け落ちているんじゃないか。・・・しかし、全国の自立援助ホームの数というのは本当に微々たるものでしかない。各県に一つずつ?、そんなもんじゃおっつかない。」「自治体の補助なく、全く国の制度だけでやっているのは鳥取と、多分星さんの所と・・・」。

午後は「子どもたちの自立を支えるために」と題するシンポジウムです。

須藤光弘さんは青少年の問題行動の傾向を、戦後から現在までに至る複雑な社会環境の変化を解きほぐし、それに対応させる形で明らかにされました。こうした実態に即した分析の中から、今の青少年に求められる教育のあり方が導き出されてくる。

生徒の心を開かせる指導(1人1人との対話の重視)、教職員の資質の向上(生徒への共感・ダメなことはダメというけじめ・問題が生じたら教職員全体で取り組もう)、さらには保護者に対しての協力依頼(開かれた学校作り)などの改革に着手されています。

秋場博さんは「自立とは何か」という難しい課題についての掘り下げた検討から論を進めています。それは「心の中に依存できるものをたくさん持っていること」。文字どおりの依存ではなくて「心の中で精神的に依存できるという形」です。それは私達に「絶え間無い孤独感や将来への不安を克服させる力・耐える力」を与えると。

しかし、私達を自立させるものは何だろう。秋場さんは、それは「人間関係の体験である」「孤独の耐え難さに一緒に付き合ってくれる誰かがいること」であると言う。そして初めて「この世の中は生きるに値するという気持ち」「自分に対する肯定感」が得られるのです。

遠藤浩さんは自立援助ホームの社会的な意味を明らかにしています。実態と制度との齟齬は常に生じ得る。自立援助ホームは「福祉と医療と司法の狭間にいる」「法の狭間にいる」「行き場のない」「子ども達」に扉を開いてきた実践であるということ。

そして、自立援助ホームの大きな役割は、それが子どもにとっての「心の安定基地」だということ。 「何よりも帰れる場所である、失敗した時に帰れる場所である」。

例え、こじんまりとした自立援助ホームに見えたとしても、それを頼る卒園した子どもの数は膨大なのです。

このセミナーは、改めて「子どもを育てることは、未来を育てることだ」ということを思い出させてくれたと思います。

会員の声

吉光寺ヒロ子（自立援助ホームセミナー栃木大会実行委員）

自立援助ホームセミナー実行委員として関わることで、自立援助ホームの現状をさらに深く知ることができた。現代社会では、求めれば情報はかなりの量を得られるが、触れ合うことによって得る情報は、人の五感が交流することで理解は立体的に心に残る。セミナーに参加した知人も同じことを言っており、セミナーの成果の一端を知ることができた。

セミナーでは「自立援助ホーム」は目の届く範囲の運営を大事にしているということであった。目の届く範囲は、心の届く範囲でもあり、心のキャッチボールが可能な人的・物的グラウンド、それが「自立援助ホーム」、それは家庭と同じ機能がある。このような「自立援助ホーム」での生活は、心に傷を負った子どもが自立できるようになるためには必要な体験である。受容され、支持される中で自信が生まれ、自分の道を歩めるようになるのである。

これからも触れ合いの場を広めつつ、「星の家」を盛り立てて行きたいと思う。

ボランティアさんを募集しています

- ①星の家での事務の仕事(資料整理等)に協力して下さる方おりましたら事務局までご一報願います(週1~2回数時間で結構です)。
- ②宿泊ボランティア、留守番ボランティア、等も同時募集中。

「星の家」の子ども達の暮らしは、
たくさんの人びとから寄せられる
善意によって支えられています。

会員として会費を提供して下さる方、

時間を提供して下さる方、

知恵を提供して下さる方、

そして労力を提供して下さる方、……。

それらを有効に活用し、

次のステップに向けて歩みたいと考えております。



青少年の自立を支える会総会のお知らせ

- ・日時 5月13日(土) PM 2:00 ~ PM 4:00
- ・場所 社会福祉教育センター

ぜひ御参加下さい。

青少年の自立を支える会に、ご意見をお寄せしたい方は、事務局までお願いします。
募集しています。✍

星の家の
お話しもしたい
とおもいます。
みなさん
お待ちして
ます。

会員の声

関 年子（芳賀町更生保護婦人会）

養護施設の保母として勤務していた（昭和38年～49年）ある年の3月初旬、遅番の勤めを終えて帰宅しようとしていた私に中学3年の女子が「先生は帰る家があっていいね、私は……」と言ったきり声が出なかった。間もなく施設を出て寮のある職場に勤める不安な心の内を痛いほどわかる私にはなぐさめの言葉もなく一緒に泣いてしまった。

わずか15歳で自立するにはあまりにも幼すぎる。仕事がうまくいかなかったら、体をこわしたらとその心細さは私たちの想像以上のものと思います。その頃から施設を出て行ったこども達が一時的でも家庭の雰囲気味わえる心のやすらげる所があったらと願い続けてきました。

「星の家」の誕生を知った時は、私の長い間の願いがかなったような思いでうれしかった。星の家で生活していた人達が一人立ちしてからも「帰る家」のあることを心の支えに生きて行くことができたなら素晴らしいと思います。養護施設が存在さえ知られていない現在、自立援助ホームの運営は大変なことと思います。

多くの人達にホームの趣旨を知っていただいて協力してほしいと願っております。



支援の輪（2000年3月31日現在）

<input type="checkbox"/> 会員数	647人	◇
<input type="checkbox"/> 会費寄付	6,621,716円	◇

青少年の自立を支える会 事務局

〒321-0963 宇都宮市南大通り4-2-18

◇◇◇◇◆◆◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇ 自立援助ホーム「星の家」内TEL・FAX028(651)0161

★会員募集中♪です。1口5,000円 [郵便為替/宇都宮00140-3-366972 名義/青少年の自立を支える会]

★スタッフ・ボランティア募集！どんなことでもお手伝いいただける方、お待ちしております。